

問 市内で農作物に被害を与える有害鳥獣は何か。

市民経済部長 水稲等に被害を与えるものはカラス、カルガモ、キジバトなどの鳥類、野菜等に被害を与えるものはイノシシ、ハクビシンです。

問 有害鳥獣の捕獲と駆除の実績はどのくらいか。

市民経済部長 平成26年度の実績で、イノシシ31頭、カラス65羽、カルガモ96羽、ドバト35羽、キジバト15羽です。

被害拡大への対策強化を

問 岩沼市が取り組んでいる被害防止対策は何か。

市民経済部長 農協、県の機関である普及センター、自然保護委員、猟友会で協議会をつくり、国の補助金等も活用し猟友会とも連携を図り箱わなを設置しています。基本的には、防止だけでは食い止めることはできないので捕獲へ向けた対策に向けられる状況です。

問 岩沼市農作物有害鳥獣対策協議会の活動内容と実績を伺う。



鳥獣被害防止対策

大戸 幸次

市民経済部長 岩沼市鳥獣被害防止計画及び岩沼市緊急捕獲等計画に基づき、市内一円を対象とした予察捕獲、またイノシシ等被害の多い山間部を重点に箱わな設置、そして新たに電気柵を地域に無償貸与あるいは設置を進めています。電気柵は延長で17キロです。

問 国・県への抜本的な対策強化のための予算措置と活用しやすい補助基準の見直しを市長会を通じて国に提言してはどうか。

市民経済部長 イノシシをはじめとする鳥獣による農作物への被害は深刻さが広域化し、全国的に問題となっております。今年の全国市長会議で決定された重点提言の中に、鳥獣被害防止対策の充実強化が挙げられています。

今年6月に県選出国会議員及び関係省庁に提出され、要望活動も行われています。引き続き県、市長会を通じ、対策強化の要望を続けていくということです。

問 学校のトイレに対する認識を伺う。

教育長 子どもたちの心と健康に対する大事な場所であり、引き続き整備を行いたいと思います。

問 トイレ改修の年次計画はどうなっているか。

教育次長 小学1年生の教室のあるフロアを中心に洋式化を進め、今年は西小と南小を、来年以降は岩小、玉小を考えています。

子どもの居場所づくりを

問 公園に何時間もいる子が心配などの声がある。中高生の居場所づくりについて見解を伺う。

教育長 図書館などの施設で、自ら(居場所を)つくって、その中に参画していくという意識を醸成していくことを小中学生のころから教育していきたいと思えます。

中高生の特に高校生に場所をつくってまでとは考えていません。

問 意識の醸成を図る手段はどのように考えているか。

教育長 小さい時からしつけ(家庭教育)と学校も含め、規律をし

つかり教えていくことです。**問** 共働きの方やシングルマザーも増えている。親のしつけだけに問題を向けるのはどうか。

教育長 社会全体での連携や協働の中で、どの親も大人も、子どもたちに話しかけられる環境づくりを進めていきたいと思えます。

問 横浜市では居場所づくり検討委員会から、不登校や学校にも家庭にも居場所がない子どもたちが気軽にふらっと寄れる場が必要だということが出されている。柔らかく子どもたちを受け止め、その中で自主性を発揮し、自立につながる場が求められていると思う。

青少年の居場所を広く地域に展開するため、設置・運営上の課題を整理し、地域での居場所の目指すべき姿を検討する検討委員会を設置してはどうか。

教育長 子どもたちの現状はいろいろ考えていますが、委員会をつくることは今のところ考えていません。

◎その他の一般質問
・マイナンバー制度の運用



教育環境の整備

渡辺 ふさ子

一問一答方式による一般質問